

地方路線の「赤字」宣伝も 運輸部門は1707億の黒字

JR東日本 ローカル線23年度収支発表



JR東日本は10月29日、ローカル線36路線・72区間の23年度収支を公表しました。「赤字総額757億円」と報道されています。特に久留里線の久留里～上総亀山間が「もっとも採算性の悪い区間」「100円稼ぐのに1万3580円かかる」と宣伝されて焦点にされています。

「持続可能性に問題」?

収支発表の前日には久留里～上総亀山間についての交通検討会議が報告書を発表し、「持続可能性に問題」「自動車中心の交通体系への移行」「国や県による公金投入に納税者の理解を得るのは難しい」などと打ち出しました。

あたかも運行を維持することが「迷惑なこと」のように宣伝されています。

しかし、そもそもこの区間の赤字額を2億3500万円とする計算が妥当なのかと疑問が持たれています。さらに、JR東の運輸部門全体

では1707億円の黒字（23年度）、内部留保は2兆円以上も確保しています。

それを考えれば、ごくわずかな赤字額に過ぎません。「持続可能性に問題」があるのでしょうか？

国とJRが結託し、結論ありきの検討会でこんな報告書を書かれています。公共交通である鉄道は「赤字が当たり前」です。「赤字だ」と宣伝して地域に廃線を飲ませようという卑劣なやり方は本当に許せません。

地域の怒りと共に声あげよう

そもそも、列車を削減し続けて、「乗りたくても乗れない」ようなダイヤにしているのはJRです。

久留里～上総亀山間は日中帯に5時間半も列車がありません。亀山での地域集会では、「部活帰りの生徒のために20時台に一本でも久留里行を亀山まで延ばしてほしい」と言ってきたが、いまだになされていません」と発言がありました。

地域の生活もながしるにするJR東日本、本場のやり方は、職場で融合化等の攻撃をかける姿と同じです。地域の怒りとともに職場から声をあげよう。